

第5回 草津市草津川跡地利用基本計画検討委員会資料（案）

目 次

- | | |
|----------------------------|---|
| 1. 各区間のテーマについて | 1 |
| 2. 動線計画（広域～各区間の動線計画） | 3 |
| 3. シンボル空間の考え方について | 9 |

1. 各区間のテーマについて

今回、基本計画をまとめて行くにあたっては、基本構想から進んだ具合的な言葉で整備テーマを示すことが必要と考え、各区間の整備テーマを選定致しました。



里山ガーデンの市民活動エリア



カフェとナチュラルガーデン

区間	整備テーマ
区間②	<p>農と人の共生</p> <p>農と人の共生をテーマに、人と農、人と動物の触れあう空間を整備します。</p>
区間③	<p>里山と人の交流</p> <p>里山と人の交流をテーマに、雑木林に守られた市民の活動空間を整備します。</p>
区間④	<p>環境と人の共生</p> <p>環境と人の共生をテーマに、隣接する空間と調和のとれたエコ空間を整備します。</p>
区間⑤	<p>人と人の交流</p> <p>人と人の交流をテーマに、各種ガーデンと共に楽しめるにぎわい空間を整備します。</p>
区間⑥	<p>時と人の出会い</p> <p>時と人の出会いをテーマに、草津の歴史と未来をつなぐやすらぎ空間を整備します。</p>

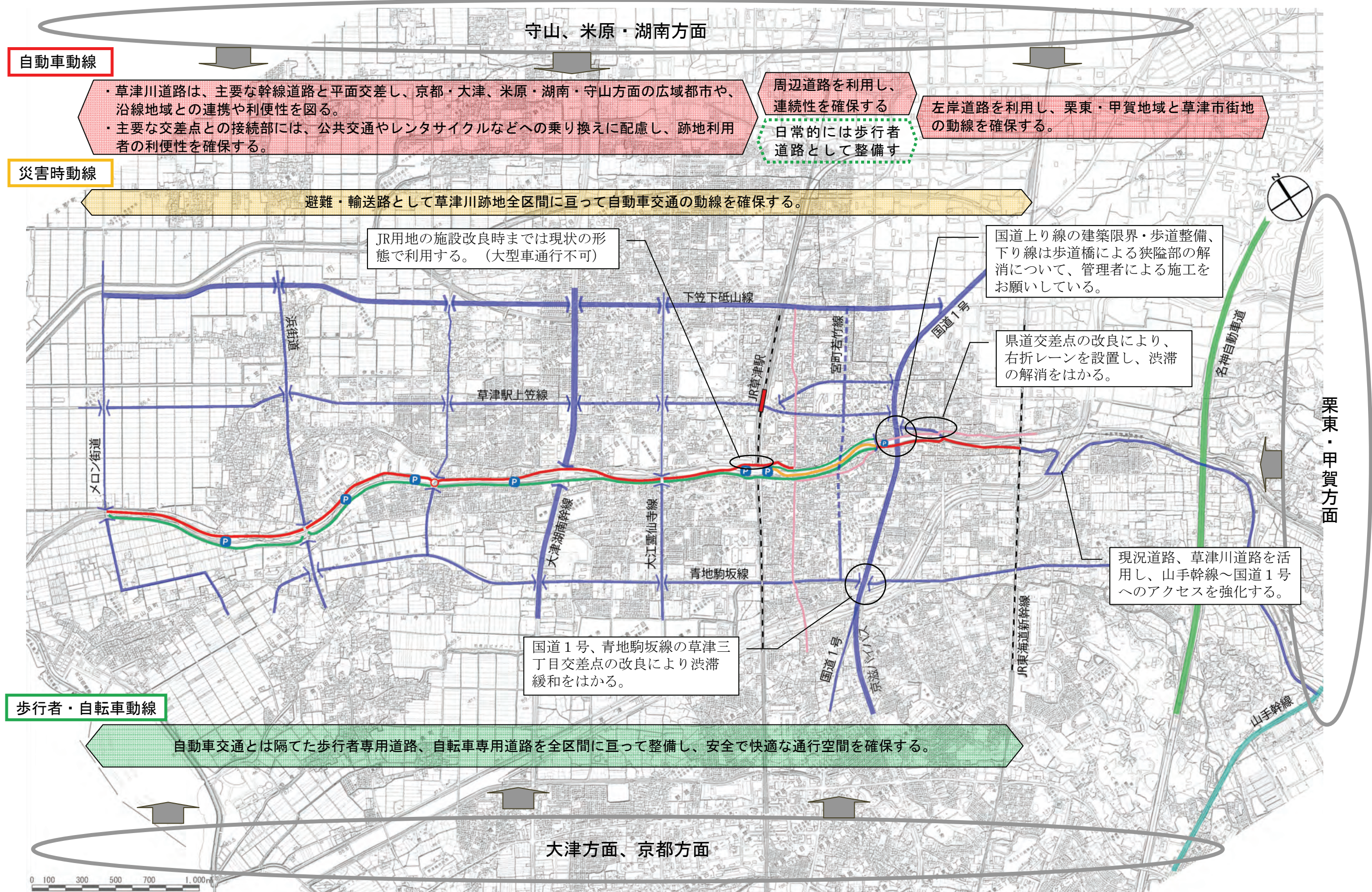
1. 各区間のテーマについて～第4回資料1 p1 修正版

緑軸 “ガーデンミュージアム” をめざして

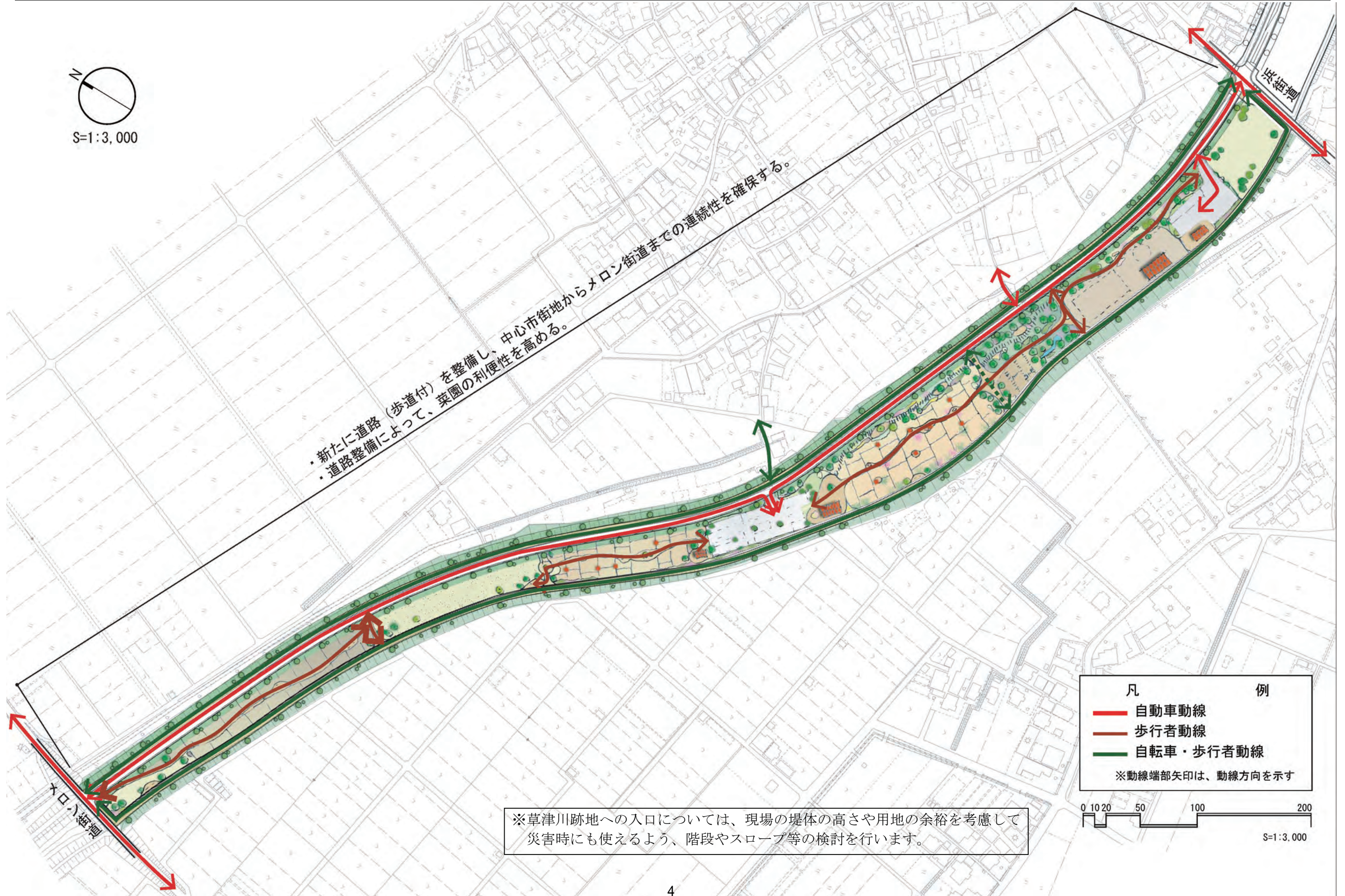


区間	区間2	区間3	区間4	区間5	区間6
基本構想テーマ	農と関わり自然を学ぶ緑	身近に憩いやすらぐ緑	人が集いスポーツに親しむ緑	人と出会い歴史を伝えるにぎわいと緑	連携と協働による緑
整備テーマ	農と人の共生	里山と人の交流	環境と人の共生	人と人の交流	時と人の出会い
緑軸のメインテーマ	<p>＜エコ・ファームガーデン＞———＜エコ・ウエルネスガーデン＞———＜バイオ・ガーデン＞———＜マルシェガーデン＞———＜ナチュラルガーデン＞</p> <p>※緑軸は、各テーマに合わせ堤体の法面や跡地全体を利用して全区間において表現する。※結節点となる交差点はシンボルとなる空間整備を行う。</p>				
整備施設例	<ul style="list-style-type: none"> ■菜園コミュニティ ■キッチンガーデン ■スクールガーデン 	<ul style="list-style-type: none"> ■自然環境学習広場 ■公園駐車場(芝生広場) ■市民の森づくり ■健康広場(グラントゴルフ、ゲートボール、フットサルなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ■エコパーク ・既存公園の機能を拡充し自然エネルギーを体感できる公園として整備 	<ul style="list-style-type: none"> ■各種テーマガーデン テラスガーデン(眺望)、ハーブガーデン、ロックガーデン、せせらぎガーデン ■マルシェ広場(市場) ■イベント広場(宿場まつり、七夕祭り、街あかりなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ■旧東海道をテーマにした街道の整備 ■観光駐車場
市民活動例	<ul style="list-style-type: none"> ・菜園講座、菜園サークル ・食育サークル 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティガーデン活動 ・里山、自然学習活動 ・軽スポーツサークル 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングサークル ・絵画サークル ・エコロジーサークル 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動(イベント開催など) ・写真サークル ・演劇サークル ・音楽サークル 	
エリアマネジメントによる収益事業例	<ul style="list-style-type: none"> ■ふれあい牧場 ■農園(カフェと提携) ■貸し農園(菜園ガーデン) ・駐車場 ・管理棟(研修室、カフェ) 	<ul style="list-style-type: none"> ■マルシェ広場 ■屋外アートスペース ■フットサル場 ■自然ふれあい広場 	<ul style="list-style-type: none"> ■エコシティー ・環境共生に特化した民間開発の誘致 ■カフェ ■観光駐車場(大型バス6台) 	<ul style="list-style-type: none"> ■カフェ ■駐車場 ■セレクトショップ ■レンタサイクル ■野外小劇場 ■各種イベント 	<ul style="list-style-type: none"> ■駐車場
防災対応	<ul style="list-style-type: none"> ■一次避難場所(跡地内の各所に地域コミュニティの中心となる広場を設け日常的な利用を災害時対応に活かす)、■防災訓練、■延焼防止帯 				
道路機能	<p>メロン街道</p> <p>車道・歩道・自転車道</p> <p>大江霊仙寺線との接続</p> <p>琵琶湖線</p> <p>緊急時対応道路 自転車・歩行者</p> <p>国道と県道 交差点改良</p> <p>車道・歩道</p> <p>県道と草津川 堤防道路との接続</p>				

2. 動線計画（広域～各区間の動線計画）

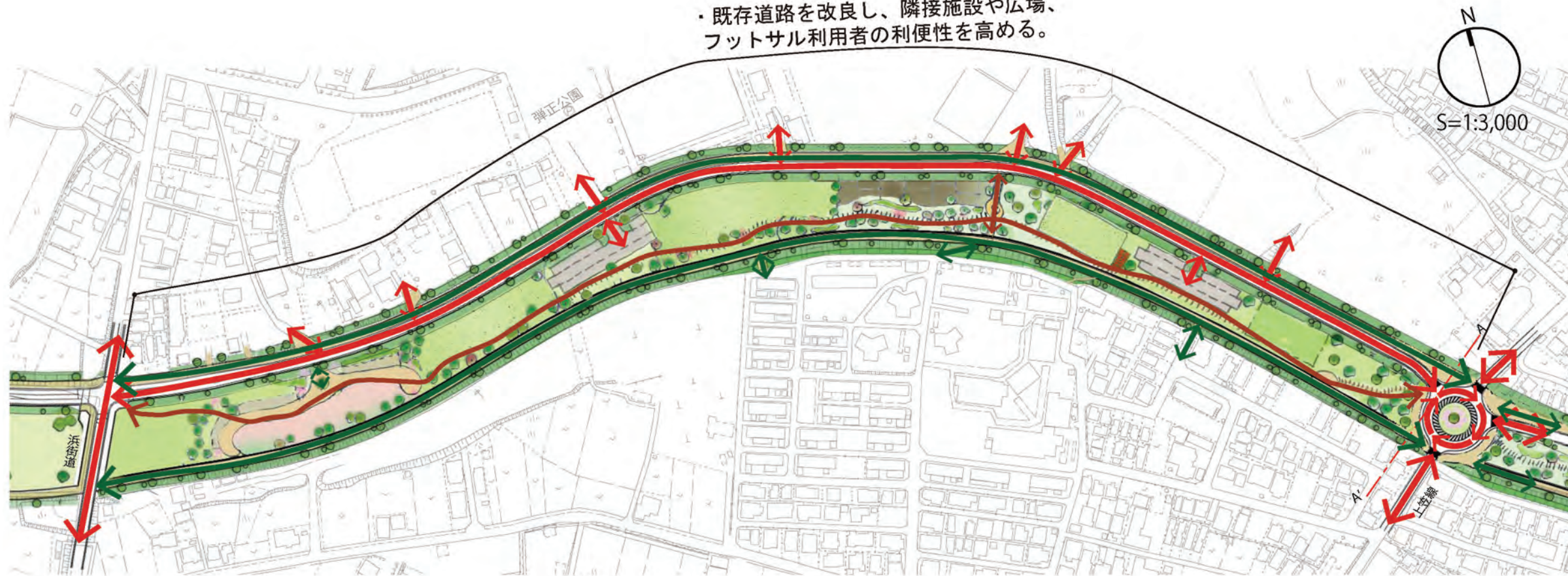


2. 動線計画（区間②の動線計画）

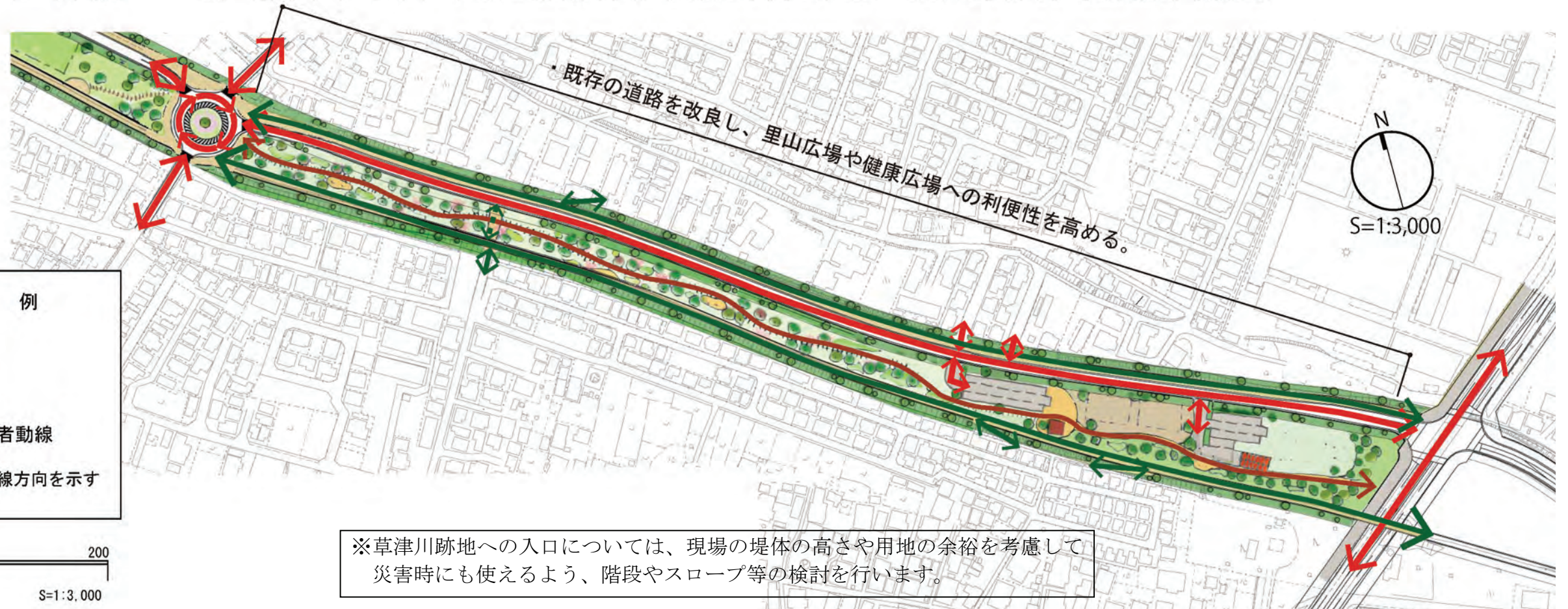


2. 動線計画（区間③の動線計画）

・既存道路を改良し、隣接施設や広場、フットサル利用者の利便性を高める。

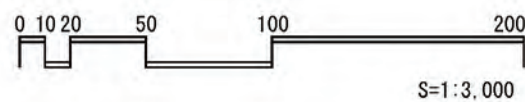


・既存の道路を改良し、里山広場や健康広場への利便性を高める。



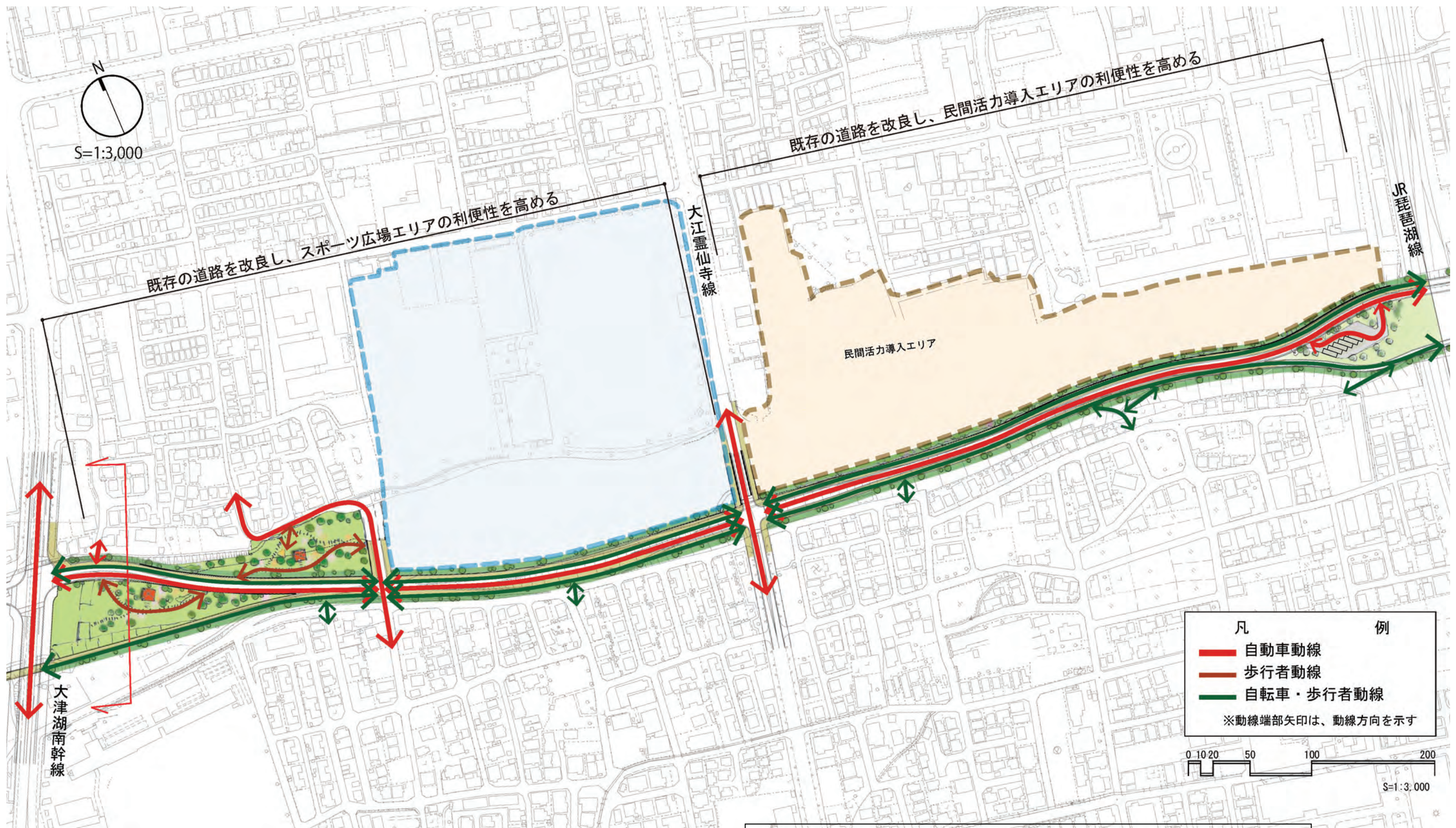
凡	例
	自動車動線
	歩行者動線
	自転車・歩行者動線

※動線端部矢印は、動線方向を示す



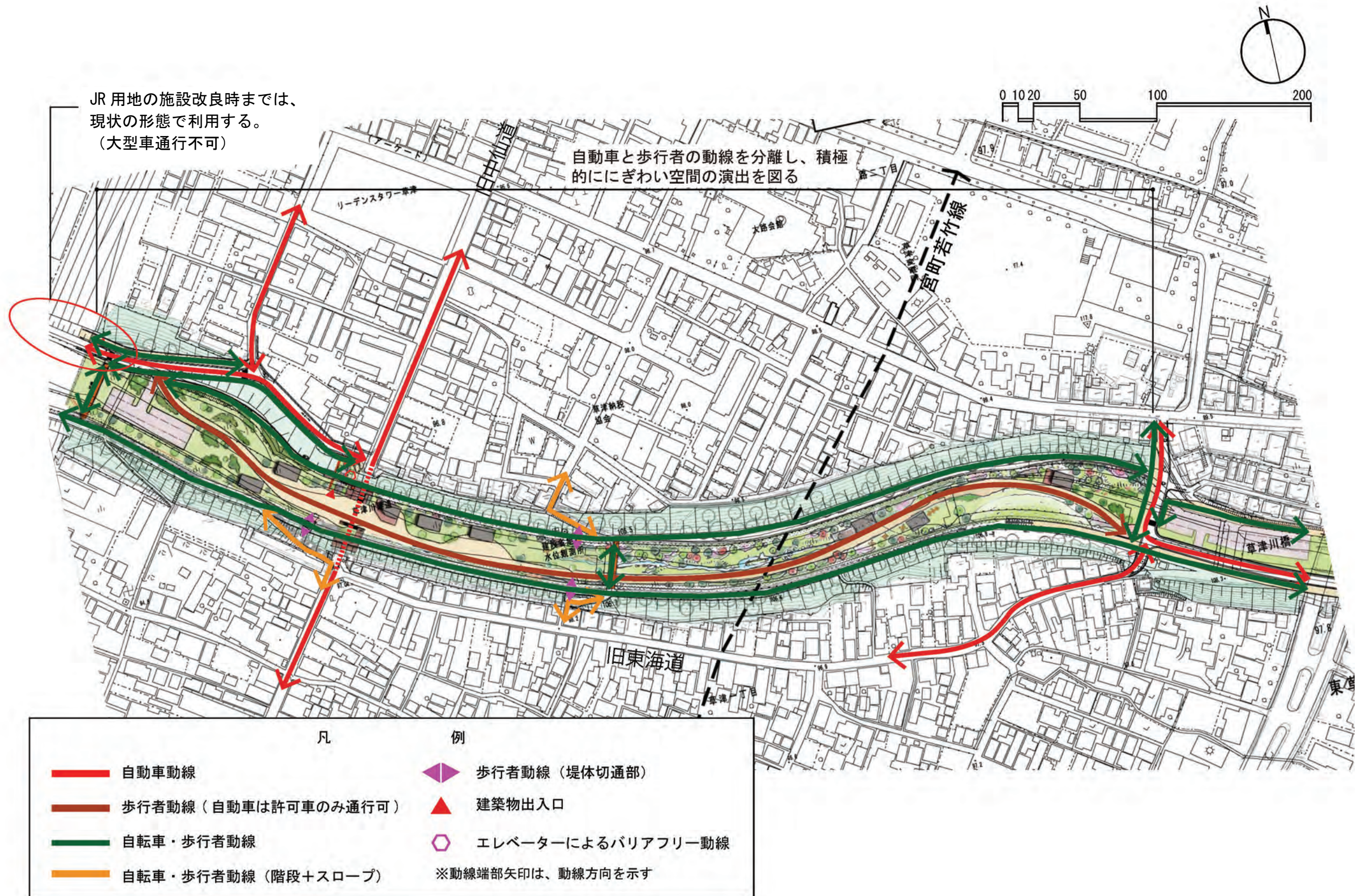
※草津川跡地への入口については、現場の堤体の高さや用地の余裕を考慮して災害時にも使えるよう、階段やスロープ等の検討を行います。

2. 動線計画（区間④の動線計画）

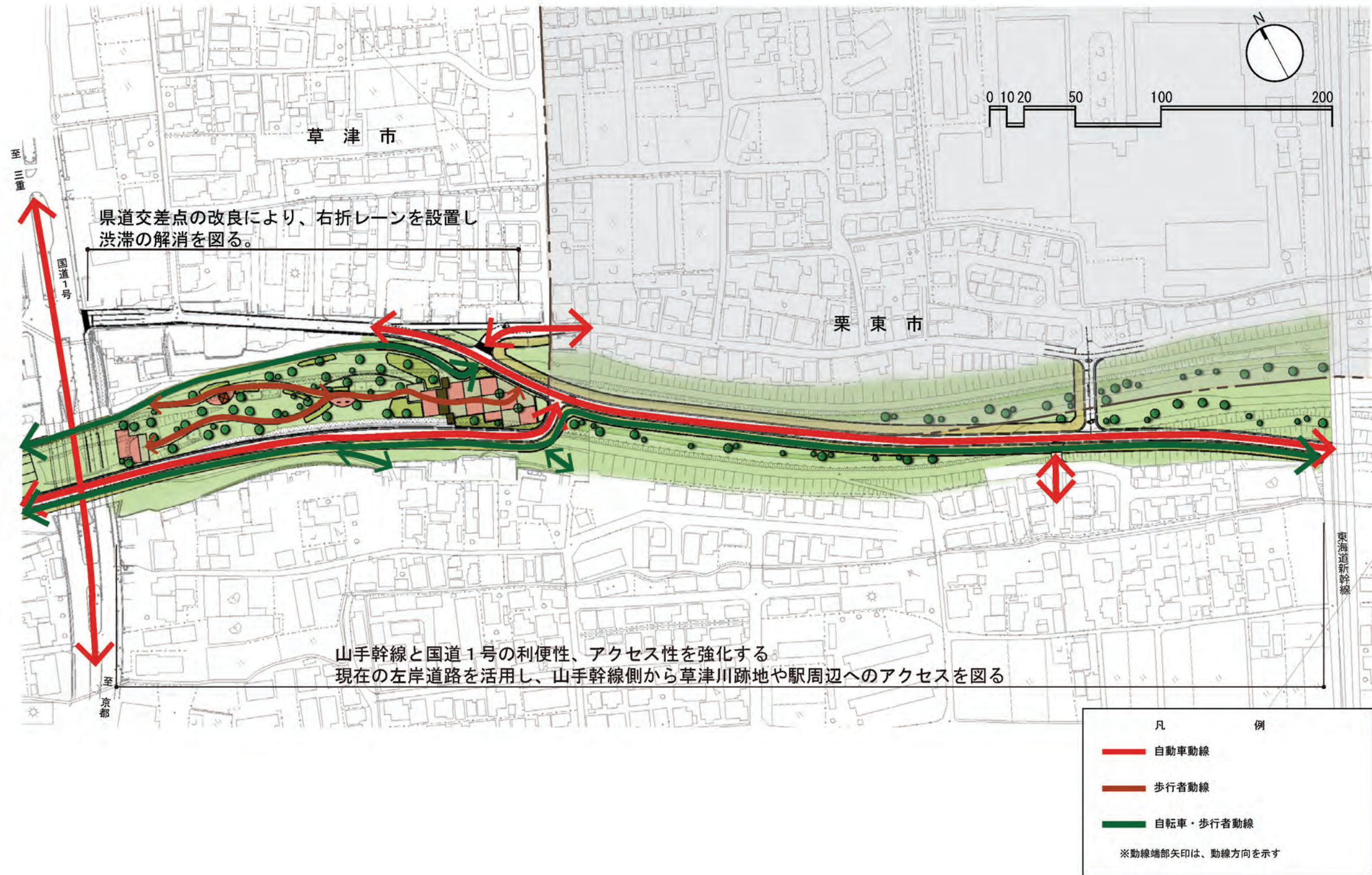


※草津川跡地への入口については、現場の堤体の高さや用地の余裕を考慮して災害時にも使えるよう、階段やスロープ等の検討を行います。

2. 動線計画（区間⑤の動線計画）



2. 動線計画（区間⑥の動線計画）



※草津川跡地への入口については、現場の堤体の高さや用地の余裕を考慮して災害時にも使えるよう、階段やスロープ等の検討を行います。

3. シンボル空間の考え方について

■シンボル空間の考え方について

<交通軸との交差点（交通結節点）の位置づけ>

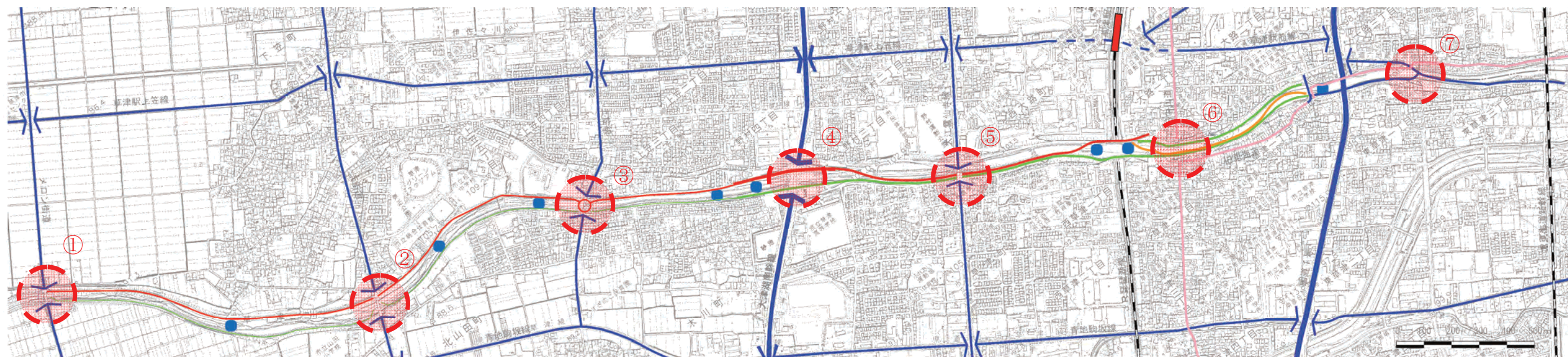
- ・草津川跡地は市内中央部を約5.7kmの延長で横切っており、南北方向の交通軸との間で交差点（交通結節点）を形成している。
- ・基本構想ではこれらの交通結節点を活用し、モビリティの向上を図ることで草津川跡地や中心市街地の回遊性を高めることが示されている。
- ・一方草津川跡地は琵琶湖と市街地を結ぶ貴重な緑軸（特色ある新しい景観の創造と地域における歴史の継承）として整備されるものであり、これら交通結節点は「緑軸の結節点（シンボル空間）」として寄与することが望まれる。

<シンボル空間の考え方>

- ・主要な交通軸との結節点は草津川跡地にとって、外部からのアクセス拠点となる半面、緑軸の連続性を物理的に分断するものでもある。
- ・草津川跡地計画ではこれらの交通結節点により各区間を区分していることから、これらを「緑軸の結節点」として捉え、緑軸の統一感や連但性を確保するとともに、草津川跡地や各区間の特徴を示すゲート（エントランス）として位置づけシンボル化を図ることとする。具体的なシンボル空間のデザインについては、実施計画の中でさらに質の高ものに仕上げていくものとする。

<シンボル空間整備の方向性>

○緑軸の連続性や統一性の演出	○各区間の特徴づけるゲート・エントランスとしての演出	○整備の進め方
<ul style="list-style-type: none"> ・「自然界」をモチーフとしたトータルデザインの実現 ・シンボルツリーの植栽やコミュニティガーデンによる緑軸全体の統一感の創出 ・交差点を包含した広場整備（デザイン化）による連続性の確保 ・案内板やファニチャーなど身近なデザインの統一 	<ul style="list-style-type: none"> ・区間毎の整備方針に応じたテーマ性のある交差点広場の整備 ・交差点形状や橋などのシンボル化による特徴づけ ・シンボルツリーやコミュニティガーデンによる地域性（個性）の演出 ・ゲートとしてのアイストップの整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・WSなど住民参加方式による計画内容の検討 ・シンボルツリーやコミュニティガーデンにおける植樹祭など地域のアイデンティティ ・住民やボランティアによる維持管理など継続性の確保 ・交差点としての安全性の確保



<シンボル空間整備の例示>

①メロン街道	②浜街道	③上笠線	④大津湖南幹線	⑤大江霊仙寺線	⑥旧街道（マンポ）	⑦東海道歴史広場
琵琶湖側玄関口として整備	災害時の役割を担う広場として整備	シンボル性を高めたまちな顔として整理	中央口交通広場として整備	新たなまちと一体的に整備	車と人、人と人の交りの広場として整備	草津宿の玄関口として整備
シンボルツリーとして樹形に特徴のある大木を配するなど、農的環境と調和する植栽主体の演出で交差点に面した広場を演出する。	芝生を基調とした広場空間や自然素材を生かしたカントリ風のファニチャー類を配置するなど、農的空間と一体感のある広場を演出する。	ラウンドアバウト（ロータリー式）交差点により特化を図るとともに、その周囲に広場を配置して、シンボル性の高い景観演出を図る。	人道橋をゲート景観の要素として活用し、シンボルツリーを配置することで、交差点広場のランドマーク性を高める演出を図る。	運動公園側の整備並びに民間開発時には、同交差点部への入口広場の設置を誘導し、施設と一体となった、都市的な広場として演出を図る。	草津川マンポの改修により、ランドマーク性を高めるとともに、堤体を活用した眺望やバリアフリーに配慮した施設整備を図る。	郷土種を基調とする植栽を施し、自然石舗装や和風デザインの門を設置するなど、旧街道の風情を高めるエントランス空間として演出を図る。